

# 『7.4 球磨川豪雨災害はなぜ起こったのか』出版記念集会 ダムのある「流域治水」はまやかした！

昨年7月の球磨川の豪雨災害を受け、行政側は住民の声を聞かず、流水型（穴あき）川辺川ダム建設を含む「緑の流域治水」を推進しようとしています。

ダムは緊急放流など危険であり、環境破壊をもたらします。このたび、出版された『7.4 球磨川豪雨災害はなぜ起こったのか』は、昨年の豪雨災害がなぜ起こったのか、気候変動、山林の現状、ダムでは犠牲者を救えないこと、瀬戸石ダムや穴あきダムの危険性、国交省の治水行政の問題点を明らかにしました。各執筆者から内容紹介や論点提起を行い、運動の課題と今後どう運動を進めていくかなどを皆さんと議論したいと思います。



花伝社刊 定価：1320円（税込み）

**日時：2021年6月26日（土）19:00～**

**会場：熊本市・県民交流館パレオ会議室8**

（市電水道町電停下車、鶴屋東館10階）

内容：基調講演「ダムのある流域治水はまやかした！」（中島熙八郎熊本県立大学名誉教授）、執筆者による内容紹介、質疑応答

資料代：1000円（『7.4 球磨川豪雨災害はなぜ起こったのか』1冊進呈）

共催：子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会

NPO 法人くまもと地域自治体研究所

問合せ：080-3999-9928 土森

\* 18時から同所で川辺川を守る県民の会の総会を開催します。

こちらにもあわせてご参加下さい。